

宮の上遺跡群

割地遺跡

WARICHI

長野県佐久市横和
宮の上遺跡群割地遺跡発掘調査報告書

1998.3

佐久市開発公社
佐久市教育委員会

宮の上遺跡群

割地遺跡

WARICHI

長野県佐久市横和
宮の上遺跡群割地遺跡発掘調査報告書

1998.3

佐久市開発公社
佐久市教育委員会

例　　言

- 1 本書は、平成9年に調査した、長野県佐久市大字横和に所在する宮の上遺跡群割地遺跡の調査報告書である。

遺跡名 宮の上遺跡群割地遺跡

所在地 長野県佐久市大字横和字割地220-4・5、218、211-1、212-1、216、215、214、
214-2、219-1、223、224-1・2、230-3、222-3

調査面積 10,890.24m²

開発主体者 社団法人佐久市開発公社

開発事業名 宅地造成

- 2 本調査は、佐久市開発公社の委託を受けた佐久市教育委員会が実施した。
3 本調査は、羽毛田卓也を担当者とし、地元の皆様をはじめ多数の方の協力を得て実施した。
4 本遺跡に関わるすべての資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。
5 本書作成の主たる作業分担は、以下のとおりである。

遺物・遺構実測 羽毛田卓也、神津ツネヨ、花岡美津子、細萱ミスズ

遺物・遺構トレス、写真、執筆・編集 羽毛田卓也

凡　　例

- 1 遺跡の略称 YMW
2 遺構の略称 M→溝状遺構 F→掘立柱建物址
3 遺構・遺物の縮尺は図中にスケールを付したので参照されたい。
4 遺構の海拔標高は、各遺構ごとに統一し、測量基準ライン上に明記した。
5 写真図版・表中の番号（例12-3）は挿図番号（例第12図3番）と対応する。
6 土層説明中の土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・（財）日本色彩研究所色票監修1987年度版『新版標準土色』の表示に基づいた。

目 次

例言

凡例

目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯.....	1
1 調査に至る動機.....	1
2 調査の概要.....	3
3 調査の体制.....	3
4 調査日誌.....	4
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境.....	5
1 遺跡の自然的環境.....	5
2 遺跡の歴史的環境.....	5
第Ⅲ章 番序.....	8
第Ⅳ章 遺構と遺物.....	11
1 溝状遺構.....	11
1) M 1 号溝状遺構.....	11
2) M 2 号溝状遺構.....	11
3) M 3 号溝状遺構.....	11
2 掘立柱建物址.....	12
1) F 1 号掘立柱建物址.....	12
2) F 2 号掘立柱建物址.....	12
写真図版.....	14

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

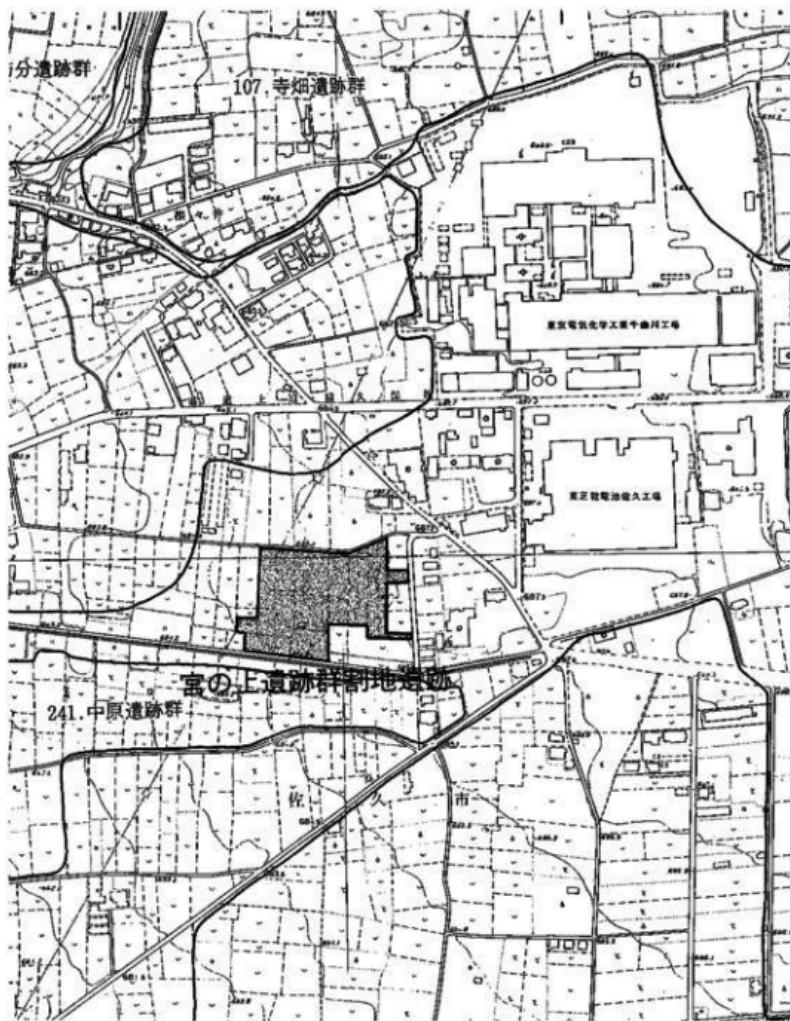
1 調査に至る動機

宮の上遺跡群は、佐久市大字横和・根々井に所在し、東から西へと流下する湯川と滑津川に挟まれた東西に伸びる帯状台地上標高677mから687mに展開する縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡である。今回調査した割地遺跡は、本遺跡中央南東端の標高686m内外を測る台地中央に位置する。

今回、社団法人佐久市開発公社が行う宅地造成事業に伴い、佐久市開発公社と佐久市教育委員会とで協議の結果、試掘調査による遺構の確認作業を行うことになった。試掘調査により対象地中央に中世の遺構が広がっていることが判明し、再度両者で協議を行った。その結果、佐久市開発公社より委託を受けた佐久市教育委員会が主体となって発掘調査を行う運びとなった。



第1図 宮の上遺跡群割地遺跡位置図 (1:50,000)



第2図 宮の上遺跡群割地遺跡位置図 (1:5,000)

2 調査の概要

平成8年度 試掘調査

調査面積 10,890.24m²

調査期間 平成9年4月1日～4月8日

検出遺構	掘立柱建物址	1棟
	柵列	1条
	溝状遺構	1条
	道路址	2条

平成9年度 本調査

調査面積 744.96m²

調査期間 平成9年4月9日から4月23日

調査遺構	中世の掘立柱建物址	1棟
	中世の柵列	1条
	中世の溝状遺構	1条
	近世の道路址	2条

整理調査 平成10年1月13日から平成10年3月31日

3 調査の体制

平成9年度

事務局 佐久市教育委員会埋蔵文化財課

教育長	依田英夫
教育次長	市川 源
埋蔵文化財課長	須江仁胤
管理係長	樹沢慶子
埋蔵文化財係長	大塚達夫
埋蔵文化財係	林 幸彦、三石宗一、須藤隆司、小林眞寿、羽田野卓也、富沢一明、上原 学
調査主任	佐々木宗昭、森泉かよ子
調査員	浅沼ノブ江、荒井利男、飯沢つや子、磯貝はな、江原富子、柏原松枝、川多アヤ子、神津ツネヨ、神津よしの、小須田サクエ、花岡美津子、花里八重子、細萱ミズ、桃井もとめ、山口丑男

4 調査日誌

平成9年4月4日

現地打合わせ、機器材の搬入など

平成9年4月7日・8日

重機による掘削

平成9年4月7日～

調査開始 プランの確認作業など

平成9年4月8日～

遺構の掘り下げ開始

平成9年4月9日～

実測作業開始 写真撮影開始

平成9年4月11日

遺構の掘り下げ終了

平成9年4月12日

重機による埋め戻し

平成9年4月11日～14日

機器材の搬出

平成9年11月26日～平成10年3月31日

土器等水洗いおよび遺物の注記、実測図面の修正

土器の復元、石器・土器の実測

遺構・遺物のトレース、遺物の写真撮影

本文の原稿執筆および編集作業

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

1 遺跡の自然的環境

佐久平は、北に浅間山を主とする三国山脈の南端峰群、東から南に関東山地から連なる山々である佐久山地、西から南に八ヶ岳連峰と、四方を山々に囲まれた盆地で、長野県の中央東端に位置する。佐久平全体の平坦部の標高は600mから1000mを測り、佐久市はこの佐久平のほぼ中央に位置し、平坦部の標高は620mから770mを測る。また北側で軽井沢町・御代田町・小諸市と、西側で浅科村・望月町と、南側で茅野市・佐久町・臼田町と、東側で群馬県下仁田町・南牧村と接している。

佐久市の中央部を佐久地方南端の甲武信ヶ岳に源を発する千曲川が北進し、浅間山に源を発する湯川・濁川、佐久山地に源を発する霞川・香坂川・志賀川・滑津川・田子川・瀬早川・八重久保川、八ヶ岳に源を発する石突川・片貝川・大沢川・中沢川・小宮山川・倉沢川・宮川などの小河川がそれに向かって集まり、大小の扇状地や河岸段丘を形成している。佐久山地の八風山や寄石山・物見山・兜岩山・熊倉峰・荒船山は、石英安山岩類や溶結凝灰岩類・ガラス質の荒船安山岩類により形成されている。これらの山の基盤には第三紀層・中生層や古生層が広がっているとされている。内山の初谷層は中生層で内山層は第三紀層である。また兜岩層・駒込層・八重久保層は第三紀層である。

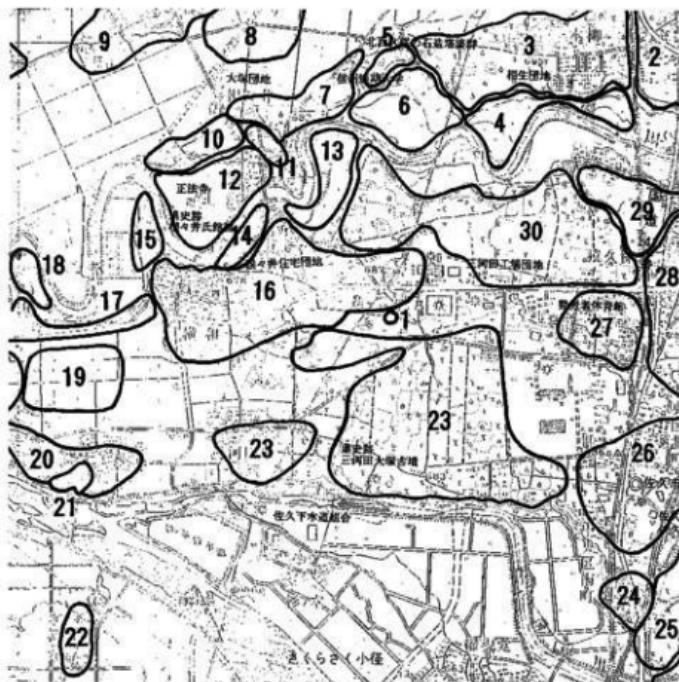
浅間山は今から1万4千年から1万1千年前にかけて2回にわたる大規模な噴火をし、軽石流(火砕流)を発生させている。平成4年度の寄山遺跡の調査で軽石流により埋没した林が発見された。発見された木々は立ったままの状態で、発見面から根元までは7mの深さであった。この地は軽石流の最南東端にあたり、斜面に乗り上げる形で堆積している。そのため木々は倒れることなく立ったまま埋まったと想定される。樹種はほとんどが針葉樹のトウヒ類であり、現在より冷涼な気候であったことがうかがえる。佐久平の北側は、浅間山第1軽石流の火山噴出物によって厚く覆われ、雄大な山麓を形成している。この山麓は火山噴出物の性格上水の各種作用を受けやすく、大小様々な峡谷や「田切り地形」と呼ばれる帶状台地と帶状低地の交互地形が見られる。

2 遺跡の歴史的環境

今回調査した宮の上遺跡群割地遺跡の周辺には、縄文時代から中世にかけての遺跡や遺跡群が密集している。宮の上遺跡群昭和62・63年(宮の上遺跡)と平成4年(根々井芝宮遺跡)に調査され弥生時代から平安時代にかけての集落が検出されている。特に根々井芝宮遺跡では弥生時代中期に属する大集落が発見された。今回割地遺跡で検出された遺構は、中世と考えられる掘立柱

建物址と柵列・溝状遺構と近世と考えられる道路址である。また遺物は縄文時代の石鏃、奈良・平安時代の壺・甕の破片や中世の陶磁器などが出土している。この地域の中世の集落は近年の調査により明らかになりつつある。南に近接する中原遺跡群では昭和62・63年と平成8・9年の調査で中世の集落が発見された。特に平成8年の調査では、密度の高い集落中の土炕より中世の和鏡と常滑焼の大甕が検出されている。佐久市の中世集落は城郭関係集落を除き現代の集落に重なっているものがほとんどであり、今回調査した削地遺跡や中原遺跡群のような例は希である。今後佐久市の中世集落を考える上で重要な例となろう。

その他周辺の各遺跡および時代等の詳細は第3図と第1表を参照されたい。

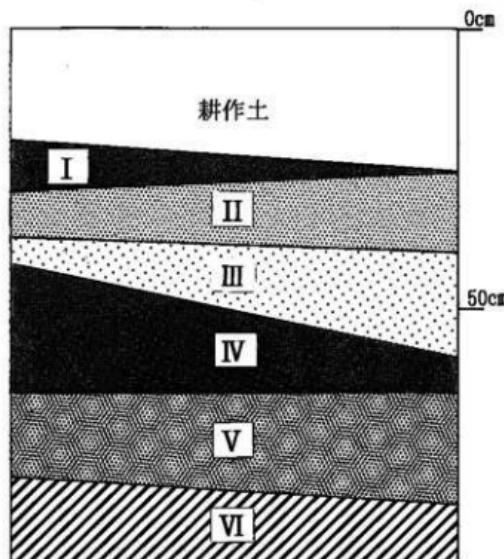


第3図 周辺遺跡分布図 (1 : 25,000)

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	時代	所在地	備考
1	割地遺跡	中世・近世	横和	今回調査
2	上の城遺跡群	弥生～中世	岩村田	上の城遺跡 (S 43)、上の城丹遺跡 (S 54) 西八日町遺跡 (S 58)、銀者堂遺跡 (H 9)
3	木櫛遺跡群	弥生～中世	岩村田	東・木櫛遺跡 (S 43)、北・木櫛遺跡 (S 47) 東大門遺跡 (H 1)、西・木櫛遺跡 (H 4～9)
4	中城澤遺跡群	弥生～平安	岩村田	
5	北西久保遺跡	弥生～中世	岩村田	北西久保遺跡 (S 57・60)
6	中西の久保遺跡群	縄文～平安	岩村田	中西の久保遺跡 (H 4・H 7・9)
7	鳴沢遺跡群	縄文～平安	根々井	五里田遺跡 (H 9)
8	西一里塚遺跡群	縄文～平安	岩村田・塙原	西一里塚遺跡 (S 48)、無田遺跡 (S 48)
9	塙原周敷添遺跡	弥生～平安	塙原	
10	日向廻遊跡	弥生～平安	根々井	
11	伊勢田遺跡	弥生～中世	根々井	
12	根々井北屋敷遺跡	弥生～中世	根々井	根々井北屋敷遺跡 (II 7)
13	諏訪分遺跡群	弥生～平安	根々井	
14	赤石河原遺跡	弥生・平安	根々井・横和	
15	北久保遺跡	古墳～中世	横和	
16	宮の上遺跡群	縄文～中世	横和・根々井	高根遺跡 (S 50)、宮の上遺跡 (S 62・63) 根々井芝宮遺跡 (H 4)
17	寄塚遺跡群	弥生～中世	横和	
18	鏡治田遺跡	弥生～中世	横和	
19	今井西原遺跡	弥生～平安	今井	今井西原遺跡 (S 49)
20	今井宮の前遺跡	平安～中世	今井	
21	今井城跡	中世	今井	
22	上北谷遺跡	古墳	桜井	
23	中原遺跡群	縄文～中世	中込・横和・今井	柴の木遺跡 (S 62・63、H 8・9)
24	深掘城跡	中世	瀬戸	
25	深掘遺跡群	縄文～中世	瀬戸	深掘遺跡 (S 40)
26	火塚遺跡群	弥生・平安	中込	
27	西蔵神遺跡	弥生・平安	中込	
28	香屋前遺跡群	弥生・平安	猿久保・中込	香屋前遺跡 (H 8)
29	猿久保周敷添遺跡	弥生～平安	猿久保	
30	守畠遺跡群	縄文～平安	猿久保・根々井	守畠遺跡 (II 7)

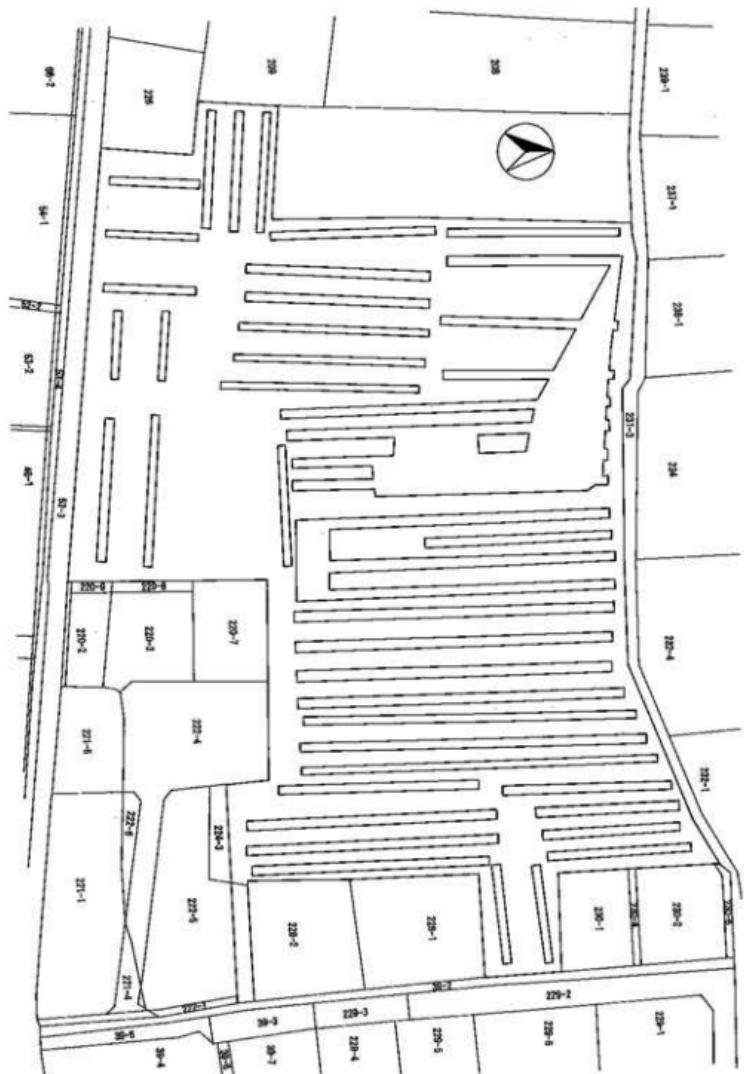
第Ⅲ章 層序



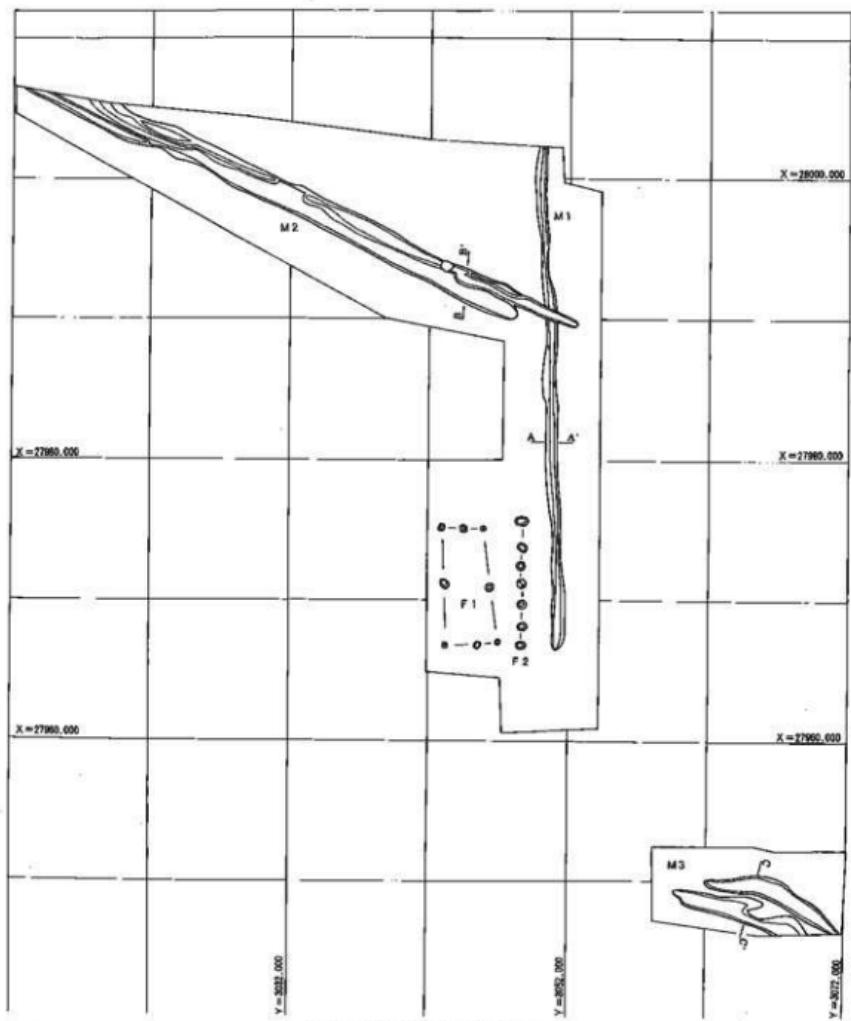
第4図 割地遺跡層序模式図

宮の上遺跡群割地遺跡は、標高686m内外を測り、南に向かって緩やかに傾斜する。基本とした層序は調査区北東部・南東部において観察した。

第Ⅰ層は砂質ロームを多量に含むローム主体の褐色土(10YR 4/4)、第Ⅱ層はローム粒子と炭化材微小片を微量含む黒色土(10YR 1.7/1)、第Ⅲ層はローム粒子と砂粒を少量、炭化材微小片を微量含む暗褐色土(10YR 3/3)、第Ⅳ層は炭化材微小片とバミス怪1cm以下を微量、ローム粒子と砂粒を少量含む暗褐色土(10YR 3/4)、第Ⅴ層は炭化材微小片を微量、ローム粒子と砂粒を多量含む褐色土(10YR 4/4)、第Ⅵ層はローム二次堆積、流砂主体の褐色土(10YR 4/6)である。確認されたF1・2号掘立柱建物址とM1号溝状遺構は第Ⅴ層上面で、M2号溝状遺構は第Ⅳ層の上面で、M3号溝状遺構は第Ⅲ層上面において検出された。



第5図 荆地遮防試掘トレンチ・調査区概定図(1:1,000)

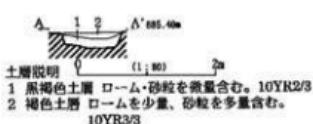


第6図 割地追跡全体図 (1:400)

第IV章 遺構と遺物

1 溝状遺構

1) M 1号溝状遺構



第7図 M 1号溝状遺構土層断面図

M 1号溝状遺構は、調査区の中央部南北方向に位置し、全体層序第V層上面において検出された。壁面・底部ともに平滑である。

遺物は十鉢・陶磁器・すり鉢の破片が出土した。

以上より本遺構は中世以前が所産期と考えられる。

2) M 2号溝状遺構(道路址)



第8図 M 2号溝状遺構土層断面図

M 2号溝状遺構は、調査区の北部に位置し、全体層序第IV層上面において検出された道路址である。壁面は平滑で、底部には轍跡が認められた。

遺物は近世の陶磁器破片、弥生時代から平安時代の土器片が出土した。

以上より本址は近世前半が所産期と考えられる。

3) M 3号溝状遺構(道路址)



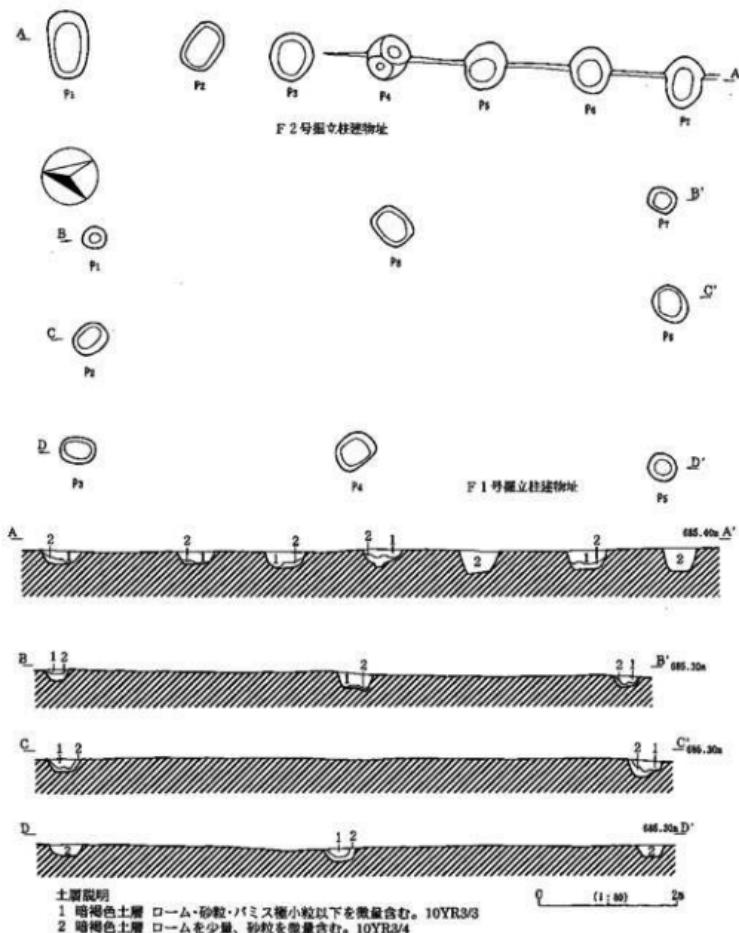
第9図 M 3号溝状遺構土層断面図

M 3号溝状遺構は、調査区の南端部に位置し、全体層序第III層上面において検出された道路址である。壁面は平滑で、底部には轍跡が認められた。

遺物は近世の陶磁器破片が出土した。

以上より本址は近世後半以降が所産期と考えられる。

2 掘立柱建物址



第10図 F1号・F2号掘立柱建物址実測図

1) F1号掘立柱建物址

F1号掘立柱建物址は、調査区の中央に位置し、全体層序第V層上面において検出された。

本址は2間×2間の大型建物址である。

遺物は土鍋・磁器破片などが出土した。

本址の所産期は中世以前と考えられる。

2) F2号掘立柱建物址(柵列)

F2号掘立柱建物址は、調査区の中央に位置し、全体層序第V層上面において検出された。本址は中央のPを共有する4基1組からなる2組の柵列と考えられる。

遺物は土鍋・磁器破片などが出土した。

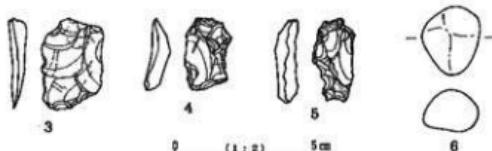
本址の所産期は中世以前と考えられる。

第2表 剖地遺跡出土遺物説明表



鉢番号	種類	材質	出土地点	特徴
II-1	碗	陶器	M 3	
II-2	碗	陶器	M 2	

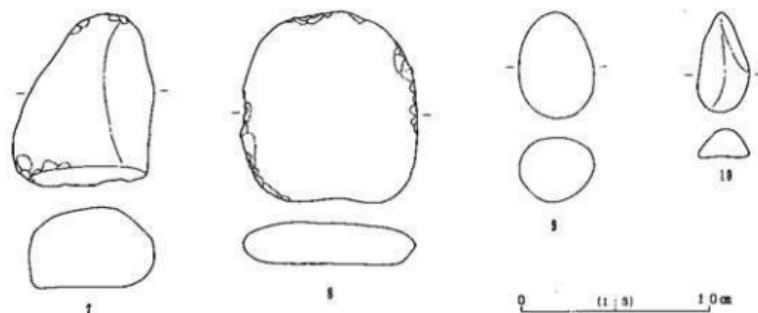
第11図 剖地遺跡出土遺物実測図



第12図 剖地遺跡出土石器実測図

第3表 剖地遺跡出土石器説明表

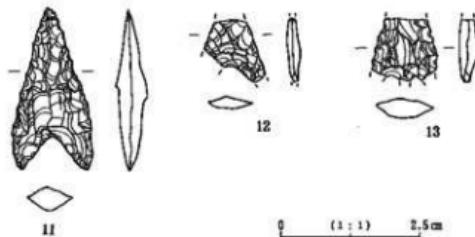
鉢番号	種類	材質	出土地点	特徴
12-3	スクレバー	輝石安山岩	試掘トレンチ	両側面に刃部。
12-4	スクレバー	灰色チャート	M 3	
12-5	スクレバー	灰色チャート	M 2	
12-6	磨き石	緑石チャート	試掘トレンチ	全面研磨。



第13図 割地遺跡出土石器実測図

第4表 割地遺跡出土石器説明表

擇因番号	種類	材質	出土地点	特徴
13-7	敲き石	安山岩	M3	辺部を中心に使用剥離痕・擦過痕。
13-8	敲き石	安山岩	M3	辺部を中心に使用剥離痕・擦過痕。
13-9	擦り石	安山岩	M3	端部を中心に使用剥離痕。
13-10	擦り石	輝綠凝灰岩	M2	端部・辺部を主に使用剥離痕。



第14図 割地遺跡出土石器実測図

第5表 割地遺跡出土石器説明表

擇因番号	種類	材質	出土地点	特徴
14-11	石鏃	黒曜石	トレンチ	凹基。
14-12	石鏃	黒曜石	M2	先端部、両逆刺折根。
14-13	石鏃	灰色チャート	M2	先端部、両逆刺、茎部折根。



M1号溝状道構 北より



M2号溝状道構 西より



F1号(左)・F2号(右) 抱立柱建物址 南より



調査区近景 手前はM1号、奥がF1・2号 北東より



調査区近景 手前はM1号、奥がM2号 東より



M 3号溝状遺構 西より

調査区掘削状況 北方より



胡地道路出土陶磁器 (1 : 2)



宮の上道路郡割地道路 上空南東より



割地遺跡出土石器 左より14-13, 14-12, 14-11 (1:1)

佐久市埋蔵文化財調査報告書

- 第11集 「赤坂垣外遺跡」
第12集 「若宮遺跡Ⅱ」
第13集 「上高山遺跡Ⅱ」
第14集 「栗毛坂遺跡」
第15集 「野馬久保遺跡」
第16集 「石並遺跡」
第17集 「市内遺跡発掘調査報告書1991」(1~3月)
第18集 「西曾根遺跡」
第19集 「上芝宮遺跡」
第20集 「下草薙遺跡Ⅲ」
第21集 「金井城跡Ⅱ」
第22集 「市内遺跡発掘調査報告書1991」
第23集 「南上中原・南下中原遺跡」
第24集 「上豊塚遺跡」
第25集 「上久保田向Ⅳ」
第26集 「蘿塚古墳群・蘿塚Ⅱ」
第27集 「上久保田向Ⅲ」
第28集 「曾根新城V」
第29集 「山法師遺跡B・筒村遺跡B」
第30集 「市内遺跡発掘調査報告書1992」
第31集 「山法師遺跡A・筒村遺跡A」
第32集 「東ノ削」
第33集 「豊原遺跡Ⅱ・下曾根遺跡I・前藤原遺跡I」
第34集 「西・本柳遺跡Ⅰ」
第35集 「市内遺跡発掘調査報告書1993」
- 第36集 「蛇原B遺跡Ⅲ」
第37集 「西・本柳遺跡Ⅱ・中西ノ久保遺跡」
第38集 「南下中原遺跡Ⅱ」
第39集 「中尾敷遺跡」
第40集 「寺畠遺跡」
第41集 「曾根新城I~IV・W他」
第42集 「寄山」
第43集 「横見平遺跡」
第44集 「寺添遺跡」
第45集 「市内遺跡発掘調査報告書1994」
第46集 「涌り遺跡」
第47集 「上芝宮遺跡V」
第48集 「池端城跡」
第49集 「根々井芝宮遺跡」
第50集 「藤原遺跡Ⅲ」
第51集 「寺中遺跡・中尾敷遺跡Ⅱ」
第52集 「坪の内遺跡」
第53集 「円正坊遺跡Ⅱ」
第54集 「市内遺跡発掘調査報告書1995」
第55集 「番屋前遺跡」
第56集 「稲原遺跡X」
第57集 「高領町遺跡Ⅱ」
第58集 「下穴虫遺跡Ⅰ」
第59集 「市内遺跡発掘調査報告書1996」
第60集 「曾根城遺跡Ⅱ」
第61集 「荆地遺跡」

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第61集

宮の上遺跡群 割地遺跡

1998年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

T385-8501 長野県佐久市大字志賀9556

埋蔵文化財課

T385-0006 長野県佐久市大字志賀9553

TEL 0267-68-7321

印刷所 ㈱佐久印刷所

